



『蔭山の里』をたずねて

かげやま さと

蔭山の里 『播磨国風土記』に、蔭山というのは応神天皇の御蔭（みか＝かずらの冠）が、この山におちたので蔭山と名づけたという話があり、ほかに蔭岡・冑岡・磨布理村などの名が記してある。風土記の記された昔（奈良時代）から、すでにこの辺りには多くの人々が住み、豊富町一帯を“蔭山の里”と呼んでいたことがわかる。（中世に蔭山荘と呼ばれた範囲は、もう少し広く南は砥堀から、北は船津町および福崎町の八千種辺りまで含んでいたようである。）



甲山全景（南方より、左方の建物は市浄水場）

甲山（豊富町豊富江鮎団地東約300m）

『播磨国風土記』にある青丘のことと考えられる。市川沿いの独立丘（標高107.8m）で、山頂に甲山八幡神社がある。近年、頂上に甲山貯水場、西山麓には姫路市甲山浄水場、北側に兵庫県船津上水道浄水場がつくられた。

甲八幡神社 豊富町一帯の氏神。

広く豊富町を見渡せる甲山山頂に神社がある。境内は広く、自動車道や駐車場も整備されている。風土記に登場する品太天皇（応神天皇）を祭神とする。

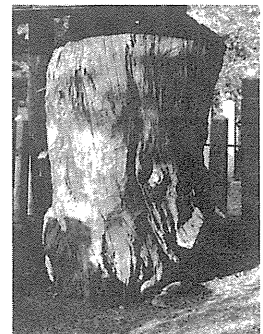
焼堂（豊富町豊富、酒井バス停東100m）『太平記』の中に、次の話がある「美人の評判の高い、塩冶高貞の妻に懸想した高師直の難をさけて、高貞と妻子が出雲にのがれる途中、分れ分れになった。高貞の妻は追手に攻められて、播磨の陰山まで逃れたが、逃げきれず、草堂の中で女の子と自害し、堂は焼き払ったという」。今、円通寺裏手の小堂を焼けた堂の跡だといひ、文政2年（1819）に「陰山焚堂早田妙応夫人の碑」が立てられた。



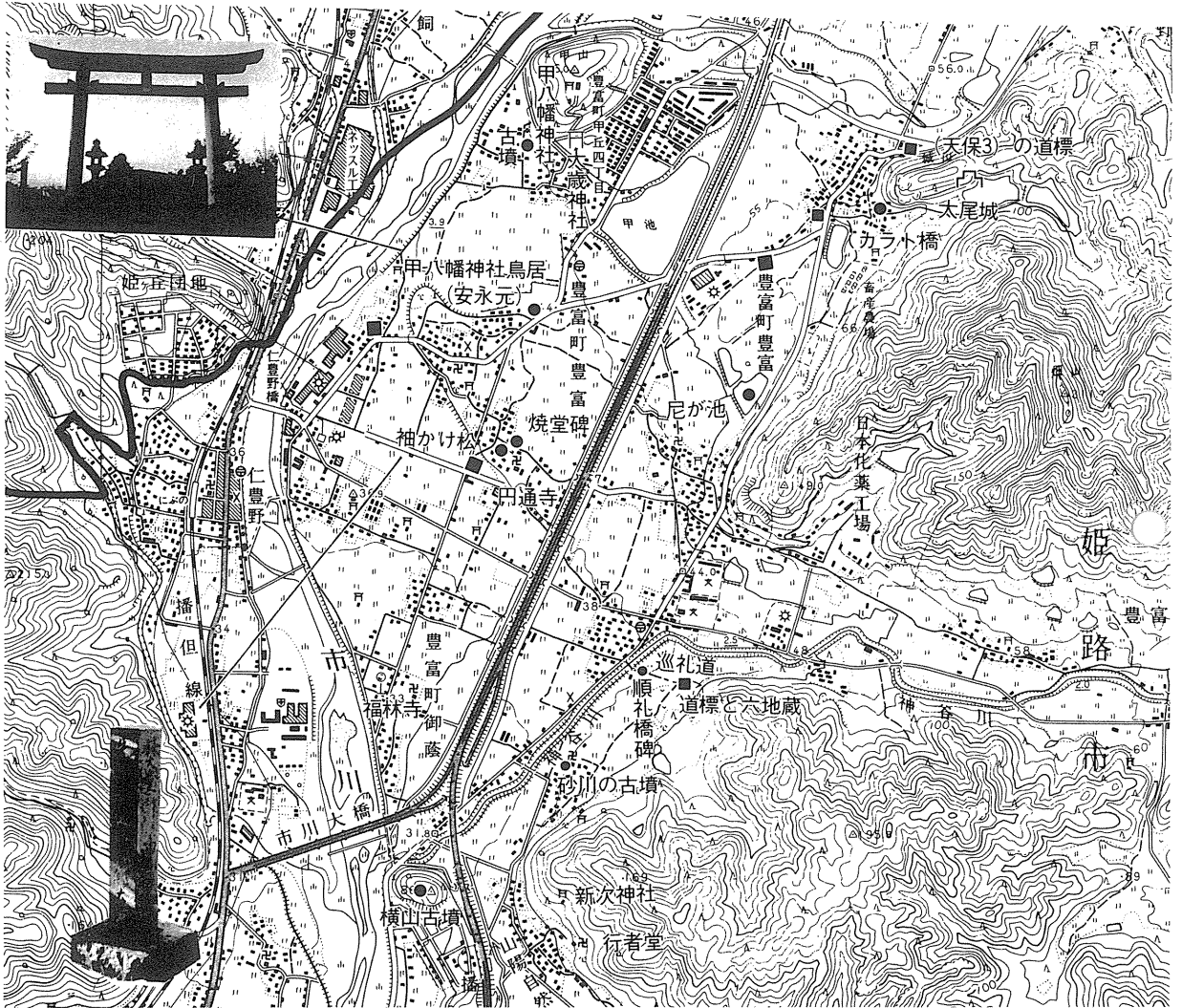
焼堂の碑（写真は豊富小撮影）

袖かけの松 焼堂のすぐ南、玉垣で囲まれた小祠の境内に枯木の株が保存してある。早田夫人（塩冶高貞の妻）が衣をかけ疲れをいやした松の跡だといひ。そばに道しるべがあり尼が池や甲八幡神社の道を示す。

円通寺（豊富町豊富） 寺縁起によると、焼堂跡より早田夫人の守り本尊とみられる仏像が出たといひ、これを本尊とし、夫人の法名から円通寺と名付けたといひ。



袖かけの松



■は道標・案内板

太尾城（豊富町豊富、太尾バス停東300m城登山口）

『播磨鑑』に、城主は太尾兵庫頭興次、赤松の家臣で天正の頃落城したとある。また『赤松家播磨作城記』には、文明元年（1469）後藤基信が居城し、五代のちに落城という。標高132.5mの山頂に東西に長い平坦地があり城跡とみられる。東へ続く尾根には堀きり部分が2本ある。

移されたカヲト橋 太尾城の麓に地藏寺があり、そばに老人憩の家がある。圃場整備でとりのけられたカヲト橋が庭石に移設されている。ほかにも石棺材が庭石に使われている。



太尾城（城山）



カヲト橋（とうろうの台石も石棺材）



岩屋寺全景

岩屋寺（豊富町神谷、岩屋バス停東南200m）寺の開基として、法道仏人（姫路市史三）と行基（播磨鑑）の名がある。いずれにせよ、歴史の古い寺であることを示す。本尊毘沙門天像は国指定重要文化財、高さ97cm。もと多くの伽藍があったが、天正5年（1577）別所吉親に攻められて焼かれた。のち、慶長6年（1601）復興、延宝4年（1676）源空が中興して今日に至る。本堂より上段の所に大岩があって、その下にお堂がつくられている。岩屋の名はこれにもとづくものであろう。本堂には毘沙門天の使いのムカデを描いた絵馬が掲げられている。本堂前の水盤は家形石棺の蓋石を利用したもの（120×70×30cm）。



岩屋寺の大岩 五輪石など（参道入口に集めてある）

大蔵神社（豊富町神谷、細野バス停東北約600m）村の家々から少しはなれた所、宮池の奥にある。境内には、享和3年（1803）の年号の鳥居のほか、文政7年（1824）の狛犬や文政5年（1822）の水盤など江戸後期のものが残る。神社とバス停の途中に大日堂があり、脇の小堂に寛文13年（1673）の石仏が祀ってある。



家形石棺蓋石の水盤



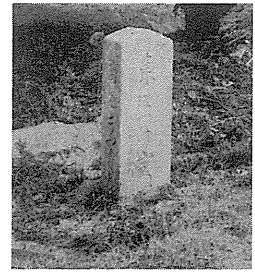
寛文13年の石仏

順礼橋の碑（豊富町 金竹交差点南200m）

神谷川の堤防に立つ明治17年につくられた碑。堤防下のバス道は、明治初めに建設された馬車道のあと。道の反対側には、清水が湧きそばに地藏堂がある。宝暦12年（1762）の地藏をまつが北向きにお堂があるのは珍しい。付近の家々は昔は屋号（油屋・カマス屋・タドン屋・松葉屋・桶屋・椿屋・木屋・フデ屋・質屋・古屋など）で呼ばれ巡礼が通っていた頃の賑わいを偲ぶことのできる場所である。



順礼橋の碑



出土した道標

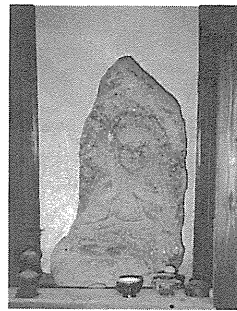
法華山への道標と六地藏 橋を渡って東へのびる田の中の道が昔の巡礼道。昭和57年、付近のやぶの中から道標が見つかり、もとの位置近く（旧位置は道の北側）に立てられた。すぐ近くの墓地に文政13年の年号を刻んだ六地藏がある。

福林寺の石造品（豊富町御蔭、薮田バス停東）境内に市指定文化財の石造品が2体ある。



六地藏（文政13年の文字がある）

石造地藏半跏像 本堂右手の小堂に安置されている。片足を下にのばした地藏像の半肉彫りが自然石を舟形に彫った内部に刻まれている。高 156cm、裏に、元享3年（1323）の年号と、願主の名が刻んである。鎌倉末期のもの、花崗石製。



福林寺石地藏（市指定）



福林寺石棺蓋石五輪卒塔婆（市指定）

石棺蓋石板碑 小堂裏手の墓地の中にある。家形石棺の蓋石の内側に五輪卒塔婆を薄く肉彫りし、まめつしてわかりにくい基礎の部分に南無阿弥陀仏の名号が刻んである。凝灰岩・南北朝のものと推定されている。高 152cm、幅 110cm、厚35cm
新次神社（豊富町御蔭、曾坂口バス停東500m）

『播磨国風土記』に新次社（にすきのもり）の名があり、延喜式神名帳に記載されているが、古くから所在が不明であった。『播磨鑑』では、神西郡の神社名に「新次社 延喜式載之 然トモ今不知其所」とある。ここを新次神社と呼ぶのは、江戸時代、葛城権現と呼んでいた社を、明治初めに姫路藩が、新次神社と認めて改称したもの、境内に伊部焼狛犬がある。東隣の行者堂には近くの道標や曾坂峠の地藏などが集めてある。



砂川の古墳

砂川の古墳（豊富町御蔭、砂川バス停東200m）

善寿寺境内の墓地の中にある。封土がなくなり石室がむきだしとなっている。玄室 550×170 cm、高さ206cm、羨道部330×130cm、高さ140cm

本号の調査に当たって、豊富小学校職員研修部作成の“郷土資料”を参照しました。

編集 糸田恒雄（姫路市 町の学芸員 姫路高校教諭）